

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300869		
法人名	有限会社ナイス ケアシステム		
事業所名	グループホーム作楽 (ユニット共通)		
所在地	岡山県津山市神戸571-1		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=3370300869-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念として掲げている「居心地の良い生き生きとした暮らしの出来るホームづくり」を職員ひとりひとりが念頭に置き、ご利用者おひとりおひとりが、自分らしい生活を送る事ができる施設を目指しています。認知症と向き合いながら、ご利用者が役割をもって生き生きとした生活が送れるように援助しています。散歩や外食、ドライブなどを取り入れ日々を楽しめる計画を立てています。食事については、季節や行事に合わせて工夫をしご利用者の「美味しい」を目標にしています。又、嚥下状態の悪い方も安全に食事が食べられるようにキザミ食、トロミ食にも対応しています。身体状態の低下にも看護職員又提携病院と協力して看取りが出来る体制を整えています。
・代表者は、事業継承に注力し、法務・税務に特化し、運営は管理者に全権委任しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「限界を決めず出来る事は一緒に行う」を目標に、病院で寝たきりだった利用者には、2人介助でトイレでの排泄や入浴支援をしたり、食事も全介助ではなく一部介助で対応し、利用者が出来る事を増やす努力をしている。家事等を手伝ってもらい役割りを持つことで、自分自身の存在価値を見出してもらっている。中庭の散歩や朝の体操を実施する事で、脳に緊張感を与え、活性化に繋がっている。外出する機会は多いが、個別に利用者の行きたい場所にも出掛け、ストレスをためない工夫をしている。理念の「利用者が生き生きとした暮らしが出来るホーム作り」を目指し、日々努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心地よい生き生きとした暮らしのできるホームづくりの理念に基づき、年間目標を立てています。4ヶ月ごとに個々に振り返り反省し上司からの意見もいただいて介護に活かしています。	利用者の残存能力を最大限に引き出す為、家事や料理等それぞれの力量に合わせた手伝いや、毎日体操と合唱を行っている。「居心地の良い生き生きとした暮らしの出来るホームづくり」という理念の実施が伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームが地域にとけこめるように、日ごろからの挨拶を心がけ近所の方となじみの関係が築けています。お祭りの日には、だんじりがホームに寄ってくだったり、又文化祭に参加するなど、温かい交流が来ています。	散歩時等、日頃から挨拶を心がけ馴染みの関係が出来ている。利用者が外を歩いていると連絡がくんだり、「お茶のボランティアに訪問しますよ」と近所の方から提案もある。お向かいの方は「庭にバラを植えるから見てね」と気に掛けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設にボランティアが来園する時などには、地域の方にチラシを配り参加をお願いして、楽しい時間を一緒に過ごしていただいています。AEDの勉強会には近隣の方もお招きして岡大生サークルによる講習で、地域の方にも緊急時の対応を学んでいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会においては参加者にグループホーム作業を知っていただくために、ホームでの日頃の状況や行事などについてお話し理解を深めていただいています。又簡単な病気の予防法や認知症介護の知識なども勉強していただいています。ご参加いただけない方へも議事録、作業新聞でお知らせしています。	運営推進会議時、看護師による「糖尿病」や「熱中症」等の勉強会も行っている。家族の参加が多いので、今後は知識を伝えるだけでなく、困り事への対策方法を提案したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の状態や事故などホームで判断しにくいことなど高齢福祉課の方と連携を取らせていただき対処させていただいています。保護担当者の方には、保護のご利用者の状況等お伝えするなど、連携を図り入退所の援助をさせていただいています。	運営推進会議には市の職員が参加しており、定期的にサービスの実践内容を報告出来る機会があり、相談等にも応じてもらえる協力関係が出来ている。生活保護の利用者も居るので、福祉事務所とも連携を取りながら支援に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の施設外の勉強会に参加するなど、ホーム内でも勉強会を開き身体拘束のない施設にすることを職員に徹底しています。ご利用者が不穏にならないように又楽しみが持てる取り組みをおこない(体操、歌、散歩)病院とも連携して対応しています。	ベットの柵を使用せず、履物の上か中に鈴を置き、音で利用者の動きを把握し、転倒防止に努めている。帰宅願望の強い利用者には、不穏になる前に、家事を手伝ってもらい、気持ちを落ち着かせている。利用者が外に出た時は、「何処に行くの」と声を掛け、気が済むまで一緒に歩く。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、施設外の勉強会、ホームでの勉強会を行い虐待のない施設づくりに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をご利用されている方もおられます。後見人の方と情報交換させていただくとともに職員同士も情報を密にしています。今後も成年後見人のご利用者の受け入れを継続します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どのような時に契約の解約になるのか例をあげ具体的に説明し改訂時には文書化し説明会も開いている。不安や疑問についても納得してもらえる説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、面会時等に意見を聞くようにしている。またご近所の方にも意見を聞くなどして問題があれば運営推進会議にて反映させている。	家族会の日に、お茶を飲みながら行われる雑談時に出る要望を運営に反映させている。運営推進会議にも多くの家族が参加するので、意見が聞きやすい。面会時には、必ず家族と話しをする聞く機会を設け、要求に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は順次外部研修に参加出来るように対応している。スキルアップができるように取り組みを始め順次受講する予定にしている。	職員は、利用者にとってより良い方法を常に考え、管理者に提案している。管理者は職員からの提案を即座に反映させるので、何でも発案してみようと思える。年間目標にも職員の率直な意見が書かれてあった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人職員が毎日施設へ訪問し、法人幹部に施設での意見や提案などを報告している。又法人幹部が施設職員に個別に面談を行い、意見や提案を聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加できるように取り組みを行っている。受験資格を満たしている該当者には受験するように勧め、スキルアップ研修も順次受講を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、常に同業者と交流を持ち、どのようなサービスが行われているか又事故や家族トラブル等について情報交換し職員にも情報を伝えることでサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活をお聞きするとともに、笑顔、タッチングなどで安心してもらい気持ちを知ることで、落ち着いて生活が送れるように援助しています。又プライベートな部分も大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より情報を聞き、介護でお困りのことやどのようなサービスを希望されているか聞く事でプランに取り入れている。状態の変化がある時又面会時に状態をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と話し合いをして、グループホームでの支援をすすめています。家族の要望で自宅復帰や特養をご希望される方にはその都度対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作楽の家族になれるように「生活のパートナー」として思いやりのある信頼関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して健康面や精神状態を常に報告し状態を知ってもらっている。状態の変化があれば家族に連絡し対応していただきます。又外食に連れて行ってもらうなど家族とホームで連携をとり対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会では利用者と家族が触れあえる時間を大切にして絆を深めています。ボランティアの方にも毎月同じグループの方に来てもらい馴染みの関係を大切にしています。	散歩時に、近所の方が孫をわざわざ見せてくれたり、手を振ってくれる。選挙に行きたい利用者には、投票所まで一緒に行く。家族と外食や外出したり、お盆や正月には墓参りにも出かける利用者也居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で季節に応じた行事や手伝いを職員と一緒に رفتりすることで馴染みの関係ができて、隣の方がトイレに行きましたなど報告してくださる方もいます。又隣同士で笑顔で話をされる方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後には、必要に応じて電話や手紙で連絡をとり、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の、会話や表情から要望やお気持ちを汲み取り、気持ちに沿って一人の時間も大切にしている。	理念の実現に向け、1日1回必ず声かけを目標に話しかけ、気持ちを聞いている。日中何もせず退屈そうにしている利用者には、好きな歴史のカルタで会話を楽しむ。テレビが好きな利用者には、主電源を入れリモコンを渡し、好みのチャンネルを選んでもらう。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より生活歴や暮らし方、生活環境等を聞き生活にサービスを取り入れるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、観察記録を残すとともに日々の申し送りで、一人ひとりの状態を把握して職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況や変化は家族へ密に連絡をしている。職員間でもカンファレンスをするなど話し合いをして情報交換や意見を積み重ねる計画に反映し援助に活かしている。ご家族についてもご意見をいただき計画書に取り入れている。	介護計画で立てた利用者のニーズが、必要かどうかを確認する為、生活記録で日々把握している。毎月行われる職員会議時にカンファレンスを行い、職員の意見が取り入れられた介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、観察記録を残すとともに日々職員間でプランと照らし合わせ考え、実践したり次回の計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望に合わせて買物、入院手続き、病院送迎など、状況にあわせて対応させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に外食や四季を楽しむためにドライブに出かけています。その際道の駅に寄ったり又今年は市内の公園への花見にも観光協会の支援を受け行くことができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医との連携を図り適切な診療支援を行っている。訪問診察は月2回ありますが、入所できかかりつけ医を変わりにたくない方については、家族対応にて診療をお願いしています。家族対応が困難な場合には個別支援を行っています。	提携医による訪問診療日の前には、看護師が職員から聞いた利用者の気になる点を書き出し、適切な医療が受けられるように支援している。経営者が芳野病院に変更され、急変時も優先的に対応してくれるので、家族も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が両ユニットに1名ずつ勤務しており、健康状態、病状を他の職員も知ることができるため協力して適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、協力医の医療機関へ入院する場合には事前に医師と相談しています。退院に当たっては回復状況や退院後の注意点も含め医療機関、ご家族と相談し合同で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時の説明を十分に行い実際に重度化した時には、再度医師、家族と相談し問題なければ承諾を得て、看取り介護を行っている。	家族の意向があり、医師の協力を得られるならば看取りを事業所で行う。去年亡くなられた利用者にも、お気に入りのワンピースを着せ、温かいタオルで体を拭き、化粧を施し、エンゼルケアを職員と家族が共同で行った。家族からは病院でなく事業所で看取りが出来たことに感謝の言葉をもらい、職員も最期まで世話が出来た事を喜んだ。	重要事項説明書に、看取りに対する指針を掲げている。契約時だけでなく、こまめに看取りについての話し合いを家族と行い、利用者にとって最善の終末期を過ごすことに期待を寄せる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自動体外式除細動器(AED)を設置し年1回訓練を行っている。その他事故発生時の対応など研修計画に盛り込み訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は定期的にホーム内で実践している。消防団・地元消防団での消火訓練・避難訓練も行い協力体制を整えている。	消防署が参加する時には、近隣にも声をかけ協力体制を築いている。夜間の対策として、20時に連絡網に沿って電話を行い、事業所に到着する迄何分掛かるか時間を図り、今後の参考にした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者をありのまま受け入れ、気持ちが明るく持てるように、何か失敗があっても、プライドを傷つけない尊厳ある声掛けをしています。	トイレには個人のおしめを置かず、必要時に倉庫から持ち出す手間を惜しまない。下着を履き替えないと恥ずかしくて居室から出てこれない利用者には、都度対応している。トイレへの誘導も「スペシャルルームに行きませんか」と声掛けにも工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いを察し引き出し自己決定を引き出しています。自己決定できない方については案を出し選択していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の状態や雰囲気に合わせて、何がしたいかお聞きするなどして、意見を取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にくしを用意し、希望の方には乳液を置いています。洋服についても可能部分は自分で選んでもらっています。又外出時には、本人の意見を大切におしゃれを楽しんでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、ご利用者の好きな献立をお出しできるようにしています。又人気がある献立を取り入れています。野菜の下ごしらえ、おやつ作り、食器の片づけも職員と一緒に行っています。	広大な敷地にある自家菜園で採れた野菜や果物を煮てジャムを作り、ヨーグルトに添えたり、おやつに提供している。嚥下状態が悪い方には、形態を細かく書いたボードを冷蔵庫に貼り、利用者が食べ易い工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や、疾患に合わせて水分、塩分、糖分、カリウム等にも注意しています。ミキサー食で対応し、その方の食べやすい状態で食事をお出しできる体制になっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に5～6回の口腔ケアを行い清潔が保てるようにしています。うがいのできない方については、ガーゼや舌ブラシを使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせ、立てなくても尿意があればトイレ誘導するなど、その人に合わせて布パンツやリハビリパンツを使用して排泄チェック表をもとにパターンを把握しトイレ誘導を行っています。	パットを当てた状態が続くと蒸れて褥創が出来やすくなるので、早い間隔でトイレに誘導している。管理者は利用者の残存能力を信じ、病院で寝たきりだった利用者にも、2人介助で便座に座らせ、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操する他、食事にヨーグルトや野菜の多い献立を取り入れ水分を多くとることで便秘にならないよう対応しています。便秘気味なときは、看護師と相談し早いうちに対応することで安定して排便があるようになっていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の状態確認を行い、体調や精神状態に合わせた入浴を行っています。温浴効果のある入浴剤を使用して、くつろいで入浴できるように援助しています。	お風呂は滑るので怖いという恐怖心がある利用者には、シャワー浴等で対応し嫌がることはしない。水虫の利用者には毎日足浴し、気になる場合には看護師に相談している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食、昼食の後体調によって、部屋で休んだり、ソファでゆっくり過ごしていただいています。毎日の体操や散歩を取り入れて、また、生活の中での手伝いをする中で精神的に落ち着き入眠しやすいように対応できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	成分表、お薬手帳を管理して、副作用の確認や効能について看護師が確認している。又状態変化があれば、掛かりつけ医、薬局と連携し、対応できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持つことで気持ちが落ち着き家に帰りたいたいと言う方も、落ち着いて生活が送れ笑顔も見られるようになっていきます。いつもねぎらいの言葉をかけて喜びある生活が送れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、外食に出かけていただいています。また身体状態に合わせ、散歩や日光浴、外食、ドライブなど希望も取り入れながら支援しています。	経営者が代わり介護車両を借りる事が出来る様になったので、今回鶴山公園へ花見に出掛けた。買出しには利用者も一緒に行き、職員が会計をしている際に、品物をダンボールに詰めてくれる。家族と外食に出掛けたり、馴染みの理容室へ散髪に行く利用者も居る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のお金を持ちたいという気持ちを大切にしています。ご家族に紛失してもよいとご理解いただき少額を持っていただいているご利用者がおられます。買い物がしたいと言われる方については、ご家族から立替でと了承をいただき、買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとのご希望があれば、電話をかけていただいています。携帯電話を持たれていて、自分の好きな時に自由に電話されているようです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは十分な広さがあり、季節感がある飾りをご利用者と作っています。中庭、裏庭があり春には燕が子育てするなど自然が感じられる空間があります。又裏の畑で野菜を育て職員と一緒に収穫もしています。季節に合わせ湿度、気温に配慮して窓の開け閉め、冷暖房に気を配っています。	毎朝、裏庭を職員と利用者が一緒に散歩し、自家菜園の野菜や花を楽しむ。感染症対策として、毎日手摺とベットの殺菌剤で消毒し、冬場は定期的に窓を開放し、空気の入換えを行っている。努力の結果、ノロウイルス・嘔吐下痢・インフルエンザが流行ることがほとんど無い。居間には畳コーナーを設け、体調が悪い時には横になって休息を取ってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のテーブル位置が決まっています。安心して席に着くことができます。疲れたらソファや部屋に帰ったりテレビを観たり、気の合うどうしで裏庭へ出て散歩されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に、テレビを置いたりゆくり座れる椅子を置いてくつろげる部屋になっています。自分の筆筒や人形など思い出のあるものを置いて安心して生活ができるように工夫しています。	利用者が思い思いに大事にしている品物、家族の写真、孫から誕生日に届いた絵葉書を入れた額を飾り、自分らしい居室作りをしている。ベッドでなく畳を敷き、布団で寝ている利用者も居る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手摺のついた安全に歩ける空間になっています。回廊式になっていますが、フロアから回廊が見渡せ安全に生活が送れています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300869		
法人名	有限会社ナイス ケアシステム		
事業所名	グループホーム作楽		
所在地	岡山県津山市神戸571-1		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念として掲げている「居心地の良い生き生きとした暮らしの出来るホームづくり」を職員ひとりひとりが念頭に置き、ご利用者おひとりおひとりが、自分らしい生活を送る事ができる施設を目指しています。認知症と向き合いながら、ご利用者が役割をもって生き生きとした生活が送れるように援助しています。散歩や外食、ドライブなどを取り入れ日々を楽しめる計画を立てています。食事については、季節や行事に合わせて工夫をしご利用者の「美味しい」を目標にしています。又、嚥下状態の悪い方でも安全に食事が食べられるようにキザミ食、トロミ食にも対応しています。身体状態の低下にも看護職員又提携病院と協力して看取りが出来る体制を整えています。
・代表者は、事業継承に注力し、法務・税務に特化し、運営は管理者に全権委任しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyouvoCd=3370300869-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年9月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心地よい生き生きとした暮らしのできるホームづくりの理念に基づき、年間目標を立てています。4ヶ月ごとに個々に振り返り反省し上司からの意見もいただいて介護に活かしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームが地域にとけこめるように、日ごろからの挨拶を心がけ近所の方となじみの関係が築けています。お祭りの日には、だんじりがホームに寄ってくだったり、又文化祭に参加するなど、温かい交流が来ています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設にボランティアが来園する時などには、地域の方にチラシを配り参加をお願いして、楽しい時間を一緒に過ごしていただいています。AEDの勉強会には近隣の方もお招きして岡大生サークルによる講習で、地域の方にも緊急時の対応を学んでいただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会においては参加者にグループホーム作業を知っていただくために、ホームでの日頃の状況や行事などについてお話し理解を深めていただいています。又簡単な病気の予防法や認知症介護の知識なども勉強していただいています。ご参加いただけない方へも議事録、作業新聞でお知らせしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の状態や事故などホームで判断しにくいことなど高齢福祉課の方と連携を取らせていただき対応させていただいています。保護担当者の方には、保護のご利用者の状況等お伝えするなど、連携を図り入退所の援助をさせていただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の施設外の勉強会に参加するなど、ホーム内でも勉強会を開き身体拘束のない施設にすることを職員に徹底しています。ご利用者が不穏にならないように又楽しみが持てる取り組みをおこない(体操、歌、散歩)病院とも連携して対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、施設外の勉強会、ホームでの勉強会を行い虐待のない施設づくりに取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度をご利用されている方もおられます。後見人の方と情報交換させていただくとともに職員同士も情報を密にしています。今後も成年後見人のご利用者の受け入れを継続します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どのような時に契約の解約になるのか例をあげ具体的に説明し改訂時には文書化し説明会も開いている。不安や疑問についても納得してもらえる説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、面会時等に意見を聞くようにしている。またご近所の方にも意見を聞くなどして問題があれば運営推進会議にて反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は順次外部研修に参加出来るように対応している。スキルアップができるように取り組みを始め順次受講する予定にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人職員が毎日施設へ訪問し、法人幹部に施設での意見や提案などを報告している。又法人幹部が施設職員に個別に面談を行い、意見や提案を聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加できるように取り組みを行っている。受験資格を満たしている該当者には受験するように勧め、スキルアップ研修も順次受講を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、常に同業者と交流を持ち、どのようなサービスが行われているか又事故や家族トラブル等について情報交換し職員にも情報を伝えることでサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の生活をお聞きするとともに、笑顔、タッチングなどで安心してもらい気持ちを知ることで、落ち着いて生活が送れるように援助しています。又プライベートな部分も大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より情報を聞き、介護でお困りのことやどのようなサービスを希望されているか聞く事でプランに取り入れている。状態の変化がある時又面会時に状態をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と話し合いをして、グループホームでの支援をすすめています。家族の要望で自宅復帰や特養をご希望される方にはその都度対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作楽の家族になれるように「生活のパートナー」として思いやりのある信頼関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して健康面や精神状態を常に報告し状態を知ってもらっている。状態の変化があれば家族に連絡し対応していただきます。又外食に連れて行ってもらうなど家族とホームで連携をとり対応しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族会では利用者と家族が触れあえる時間を大切に絆を深めています。ボランティアの方にも毎月同じグループの方に来てもらい馴染みの関係を大切にしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で季節に応じた行事や手伝いを職員と一緒に رفتりすることで馴染みの関係ができて、隣の方がトイレに行きましたなど報告してくださる方もいます。又隣同士で笑顔で話をされる方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退園後には、必要に応じて電話や手紙で連絡をとり、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の、会話や表情から要望やお気持ちを汲み取り、気持ちに沿って一人の時間も大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より生活歴や暮らし方、生活環境等を聞き生活にサービスを取り入れるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、観察記録を残すとともに日々の申し送りで、一人ひとりの状態を把握して職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況や変化は家族へ密に連絡をしている。職員間でもカンファレンスをするなど話し合いをして情報交換や意見を集め計画に反映し援助に活かしている。ご家族についてもご意見をいただき計画書に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、観察記録を残すとともに日々職員間でプランと照らし合わせ考え、実践したり次回の計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望に合わせて買物、入院手続き、病院送迎など、状況にあわせて対応させていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に外食や四季を楽しむためにドライブに出かけています。その際道の駅に寄ったり又今年は市内の公園への花見にも観光協会の支援を受け行くことができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医、協力医との連携を図り適切な診療支援を行っている。訪問診察は月2回ありますが、入所でかかりつけ医を変わりたくない方については、家族対応にて診療をお願いしています。家族対応が困難な場合には個別支援を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が両ユニットに1名ずつ勤務しており、健康状態、病状を他の職員も知ることができるため協力して適切な対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、協力医の医療機関へ入院する場合には事前に医師と相談しています。退院に当たっては回復状況や退院後の注意点も含め医療機関、ご家族と相談し合同で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した時の説明を十分に行い実際に重度化した時には、再度医師、家族と相談し問題なければ承諾を得て、看取り介護を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自動体外式除細動器(AED)を設置し年1回訓練を行っている。その他事故発生時の対応など研修計画に盛り込み訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は定期的にホーム内で実践している。消防団・地元消防団での消火訓練・避難訓練も行い協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者をありのまま受け入れ、気持ちが明るく持てるように、何か失敗があっても、プライドを傷つけない尊厳ある声掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いを察し引き出し自己決定を引き出しています。自己決定できない方については案を出し選択していただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の状態や雰囲気に合わせて、何がしたいかお聞きするなどして、意見を取り入れています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台にくしを用意し、希望の方には乳液を置いています。洋服についても可能部分は自分で選んでもらっています。又外出時には、本人の意見を大切におしゃれを楽しんでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、ご利用者の好きな献立をお出しできるようにしています。又人気がある献立を取り入れています。野菜の下ごしらえ、おやつ作り、食器の片づけも職員と一緒にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態や、疾患に合わせて水分、塩分、糖分、カリウム等にも注意しています。ミキサー食で対応し、その方の食べやすい状態で食事をお出しできる体制になっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日に5～6回の口腔ケアを行い清潔が保てるようにしています。うがいのできない方については、ガーゼや舌ブラシを使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせ、立てなくても尿意があればトイレ誘導するなど、その人に合わせて布パンツやリハビリパンツを使用して排泄チェック表をもとにパターンを把握しトイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操する他、食事にヨーグルトや野菜の多い献立を取り入れ水分を多くとることで便秘にならないよう対応しています。便秘気味なときは、看護師と相談し早いうちに対応することで安定して排便があるようになっていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時の状態確認を行い、体調や精神状態に合わせた入浴を行っています。温浴効果のある入浴剤を使用して、くつろいで入浴できるように援助しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食、昼食の後体調によって、部屋で休んだり、ソファでゆっくり過ごしていただいています。毎日の体操や散歩を取り入れて、また、生活の中での手伝いをする事で精神的に落ち着き入眠しやすいように対応できています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	成分表、お薬手帳を管理して、副作用の確認や効能について看護師が確認している。又状態変化があれば、掛かりつけ医、薬局と連携し、対応できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持つことで気持ちが落ち着き家に帰りたいたいと言う方も、落ち着いて生活が送れ笑顔も見られるようになっていきます。いつもねぎらいの言葉をかけて喜びある生活が送れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、外出に出かけていただいています。また身体状態に合わせ、散歩や日光浴、外出、ドライブなど希望も取り入れながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者のお金を持ちたいという気持ちを大切にしています。ご家族に紛失してもよいとご理解いただき少額を持っていただいているご利用者がおられます。買い物がしたいと言われる方については、ご家族から立替でと了承をいただき、買い物に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとのご希望があれば、電話をかけていただいています。携帯電話を持たれていて、自分の好きな時に自由に電話されているようです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは十分な広さがあり、季節感がある飾りをご利用者と作っています。中庭、裏庭があり春には燕が子育てするなど自然が感じられる空間があります。又裏の畑で野菜を育て職員と一緒に収穫もしています。季節に合わせ湿度、気温に配慮して窓の開け閉め、冷暖房に気を配っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のテーブル位置が決まっていて安心して席に着くことができます。疲れたらソファや部屋に帰りくつろいでテレビを観たり、気の合うどうしで裏庭へ出て散歩されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に、テレビを置いたりゆっくり座れる椅子を置いてくつろげる部屋になっています。自分の筆筒や人形など思い出のあるものを置いて安心して生活ができるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで手摺のついた安全に歩ける空間になっています。回廊式になっていますが、フロアから回廊が見渡せ安全に生活が送れています。		